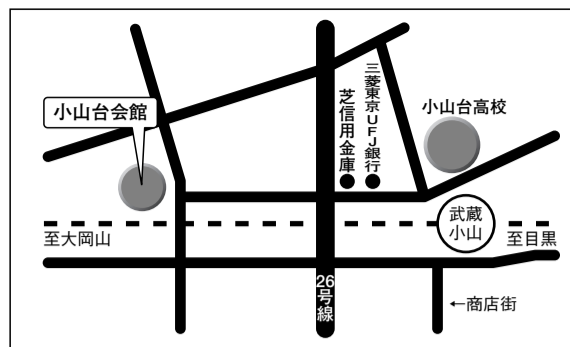


第31号

2007年9月25日 発行

発行所 財団法人小山台
〒142-0062 東京都品川区小山4-11-12
TEL 03(5721)6171 FAX 03(5721)6173
発行人 理事長 大澤佳雄
編集人 常勤理事 杉山 元

財団法人小山台 会報



台湾学生交流派遣始まる

1. はじめに

2007年3月11日(日)より18日(日)まで中部台湾雲林斗六市の環球技術学院との交流と帰路北見学の8日間、大学生達の台湾交流第一回目ということもあり事務局から同行しました。昨年3月と10月の二度にわたる財団からの予備訪問など準備を重ねてきたつもりでしたが、何よりも環球側の全学をあげての熱意と周到な準備により、今回の交流が成功裏に終了できたことは大変喜ばしく思います。

2. 素直な感動

学生達は今回の台湾訪問に素直に感動しています。環球の用意したプログラム、校内外の実習や企業参観、ディスカッションなどへの興味や学習と同時に、同校の先生や学生をはじめとする台湾の人々の「温かさ」への感動もあると思います。日頃とかくぎすぎすし

がちな都会環境の小山台学生が台湾の人々の温情に素直に感動する経験は人として大切なことだと思います。

3. 同洋人

また学生達は環球の学生との交流の中で、言葉が困難にもかかわらず何か心が通い合う不思議を語っています。同じ東洋人だからでしょうか。よく日本では西洋と東洋と言いますが中国語で東洋とは単に東の海すなわち日本を指すと聞いたことがあります。だとすると日台が同じ東洋人とは意味をなさないことになりそうです。東洋人ではなく洋(海)を同じくする「同洋人」としたらどうでしょうか。同洋の故に古くから相互に人や文化の関わり合いがあったと言えます。これが学生達の心に通い合う何かなのではないでしょうか。日台は「同洋人」。そして洋を同じくする論理



日本財団法人小山台基金會蒞臨環球技術學院遊學紀念 March.2007

からすればアメリカも西欧も「同洋人」。心が広がる思いがしませんか。

4. 将来への期待

環球と同様財団法人小山台も若者・学生の将来に期待し、彼等の視野を広げる機会をできるだけ多く与えたいと思います。幸い環球技術学院という良きパートナーを得て台湾との交流の第一歩を踏み出せたことは非常に意義深く、今後とも両者の交流の発展のために努力するつもりです。

財団法人小山台 事務局長 松本功次

後でわかること

第15回英国語学研修 派遣リーダー

松本 優



私はこれまで団員に「帰国後に悔いの残らないように精一杯楽しんでほしい」「もったいない過ごし方はしないほうがいい」と度々言ってきました。しかし最近、「してもいい後悔」もあるのではないかなと思うようになったのです。もちろん、この派遣に参加したことを後悔してほしくはありません。けれども、帰国後に「もっとあれをしておけばよかった」「あそこにも行ってみたかった」などという思

いを抱くことは、大切なことなのではないでしょうか。

私は失敗することよりも、満足しきって帰ってしまうことの方が怖いと感じます。現地にいるときは「毎日楽しくて仕方がない」そんな気持ちでいいのです。しかし、帰国して冷静に振り返ると、楽しければ楽しかったほど、改善点も多く浮かんでくるはず。団員にはその改善点に気づいてほしいと思います。ただ「楽しかった」だけでは、その場で終わり、後に何も生かされない経験になってしまいます。帰国後の後悔が、次へのステップになるとすれば、団員には多くの失敗や後悔を感じて帰国してほしいと私は願います。また、何が「もったいなかった」のかということも、おそらく帰国して初めて気付くでしょう。

テロ騒動がありましたが、3週間無事に過ごせるよう祈りつつ出国したいと思います。

派遣に向けて

第5回英国交換ブリッドポート 派遣リーダー

道明 祥江



今回はブリッドポートとの交流十周年を迎える回です。財団とユースセンターの長年築き上げた結果であり、この記念すべき年にリーダーを務めさせて頂けることに喜びとともに責任を感じています。今後もこの貴重なプログラムが続いていくよう貢献していきたいと思っています。

オリエンテーションの際、「あと一步を踏み出す勇気を持ってほしい」、「日本人代表として行ってほしい」ことをお話ししました。この願いは前回の派遣の反省からでてきたものです。それを叶えるべく、私は団員に、自分の興味がある分野と、(大まかですが)日本に関して調べてきてもらいました。食文化、スポーツなどはじめ、調べてみると学ぶことが多く勉強になりました。パートナーと始めは話しづらいつ感じられるかもしれませんが、その際に、この調べてきた内容なら、自信を持って教えてあげることが出来るでしょう。そういったはじめの「一步」の後押しとなればと思ったからです。また、日本としての意識に関してです。私は派遣先で出会う人々は、私達を通して日本への理解を深めていることを実感しました。私達はそのきっかけになれるのであればいい加減ではなりません。また相手の国を知るに際し、自国への理解が一つの基準となり得るはず。現地に行かずともリアルにその国の光景を目にでき通信し合うことが可能となった今、私達が実際に旅立ちそこで生活する意義が一層問われてきているのではないのでしょうか。私自身その考えに納得し、今回考えてみたいと思います。メンバーが充実した日々を過ごせるように私は何ができるか考え、そのことを行動に移して、団員が無事に帰国できるよう全力を尽くしていきたいと思っています。

『有力感』

第3回英国交換ミドルスブロー 派遣リーダー

沢松 知慧



ミドルスブロー派遣のリーダーのお話を伺ったとき、私は、4年前に高校1年生で同派遣に参加し、再びこの地を訪れたいと思っていたことが実現できるチャンスだと、大変嬉しく思いました。それと同時に、私がリーダーとして責任を持って団員をサポートしていかなければならないのだと、身を引き締めて躍る気持ちを抑えました。

今まで住み慣れ、いろいろな面で保護されてきた土地を離れて、言語も歴史も文化も風習も異なる地に行くことは、ひとりになるということだといっても過言ではありません。派遣中に、予想外の出来事や、なにかトラブルが生じた場合も、まずは自分で

考えて対処しなければなりません。そのような困難に直面した際に、自ら考え行動することで、人は行動に対して自己の責任感を持つようになれるのだと思います。

また、まだ十分に精神的な若さを保っている団員たちに、その吸収力を最大限に生かしてほしいと思っています。自主的に行動したその過程や成果を通して、人は責任感や自信、そして「有力感」を持つようになれる。『有力感』とは、自らが世の中にとって役に立っているのだとか、自分の行動で、自分自身や世界を変えていくことが出来るのだという精神的な生命力だと言えるでしょう。

これら責任感・自信・有力感の三つは、それぞれ深く関係していますが、中でも有力感、現代の日本社会を生き、次世代を担っていくべき若者に最も薄弱なものの一つであると思います。幼い頃から社会の型にはめられ、早くから物事を諦める事に慣れてしまった若者に今一番必要なのはそうした有力感を持つことだと思うのです。派遣を通して、団員たちのそのような精神的成長を見守りサポートしていくことが、私の出来る役目だと思っています。



世界の頂点に 立った日本人

理事長 大澤 佳雄

いざなぎ景気を超える持続的な好況といわれても全く実感がわかず、規制緩和やアングロ・アメリカンの経営手法ということで人減らしの波はそうそう取まらない状況で、私どもの財団のような非営利団体への期待は高まるばかりである。本年も財団の活動として多くの学生たちを海外へ送り込んだが、この経験が「自己確立と日本発見」のきっかけとなれば大変喜ばしいことである。

最近「フェラーリと鉄瓶」という本で、自動車デザイナーとして世界の頂点に立った奥山清行さんという方を知ったが、天稟の才能の練磨はともかくアメリカ、ドイツ、イタリアでのコミュニケーションのための努力は並大抵のものではなかったようだ。彼はコミュニケーションの前提として「自己の確立」することを、若い人々へのメッセージとして伝えている。日本には「沈黙は金」というような格言があるが国際社会においては「沈黙は無能」と同義であり、理解を求めるためには意見を戦わせる必要がある。私たちの職場でも「上司や同僚は何もわかってくれない」という若人の苦言を聞くが、よく聴いてみると「自分は何をしたいのか」が分かっておらず、したがってコミュニケーションが成立していないケースが殆どであるといえよう。

その奥山さんは世界最高価格のスポーツ・カーをデザインし自動車デザインの総本山であるカロッツェリア（自動車工房）を辞任し、現在は故郷山形の地場産業の復興に力を貸している。世界をドロ잉の鉛筆一本で制覇した日本人が、ローカルなコミュニティーに帰還して「失うべきではない日本の美」を守り育てようとしている、その志は頭が下がるものである。

ぜひ財団小山台の交換留学生のなかから第二の奥山さんが出て欲しいものである。

第7回 ドイツ カンジウス校生徒来日

2007年7月31日
～8月20日

ベルリンのカンジウス校と財団法人小山台との相互交流は14年目となる。派遣された生徒の家庭がホームステイでお世話になった家庭の生徒を翌年受入るもので、今年は受入れの年であった。今年は、生徒10名、日本語学科の梅津先生、小林先生の合計12名来日され、友好を深めた3週間であった。

*7月31日

成田着、財団で昼食、オリエンテーション後各ホームに案内した。

*8月1日

ウエルカムパーティ 受入れ家庭主催
矢作校長他多数参加。

*8月2日

ランチデー 会館でゲームのあと横浜で親睦ボウリング大会開催

*8月3日

小山台デー 小山台高校生徒との交流
茶道、剣道の体験の後、英語で俳句を作る。短冊に墨で書いたが、中には漢字を書く生徒もいて驚きであった。

*8月4日

財団にて引率者と保護者の懇談会を開催
食事、洗濯、生活習慣（お風呂、ウォシュレット

の使い方、お小遣いの程度など話題はつきず、大変有益であった。

*8月6～9日

関西旅行 品川駅6時半集合。
奈良世界青年友の会の方たちの案内で
京都 金閣寺、竜安寺、清水寺を見学、奈良にて
夕食後燈花会を見学。

奈良 東大寺、奈良公園、法隆寺、墨工房にてに
ぎり墨作り体験。奈良2泊

宮島 厳島神社を見学。

広島 平和記念資料館、原爆ドーム見学後帰京

*8月10～17日、19日まで

ファミリーデー 浅草、鎌倉、ディズニーランド
等を見学。

*8月15日

日光見学 東照宮他 東武特急 7時半
華厳の滝へは貸切バス利用 帰京18時半

*8月18日

評価会・サヨナラパーティー 思い出の写真贈呈。

*8月20日 帰国 SK984 11:40発

*8月26日

受入れ家庭による評価会、協力感謝。



厳島神社にて



小山台デー

平成19年度 海外交流事業参加者

英国語学研修派遣団(26名)

氏名	所属
小澤 静香(女)	小山台高校全1E
小林 雄太郎(男)	全1B
糸原 志保(女)	全1D
渡辺 加奈(女)	全1D
黒木 美都子(女)	全1D
小田 太地(男)	全1C
濱中 眞由(女)	全1C
山田 千晴(女)	全1F
木村 彩子(女)	全1G
内藤 星美(女)	全1F
下總 美由紀(女)	全1F
渋谷 友理香(女)	全1G
梶田 夏江(女)	全1G

◎印リーダー ○印サブリーダー

氏名	所属
清水 麻衣(女)	小山台高校全1G
堀井 美沙(女)	全1D
戸部 翔太(男)	全1D
大竹 美里(女)	定4A
平岩 芳郎(男)	全2D
◎花坂 未来(男)	東京学芸大2
木村 駿一(男)	国際基督教大2
樋口 舞(女)	帝京大1
菊池 菜々子(女)	獨協大2
◎稲留 恵理(女)	国立看護大3
日高 誠也(男)	埼玉大2
近藤 卓也(男)	明治大2
◎松本 優(女)	上智大2

英国ブリッドポート交換留学派遣団(6名)

氏名	所属
山口 恵子(女)	小山台高校全1E
鳥生 優人(男)	全1A
鮎沢 美佳(女)	全1F

◎印リーダー ○印サブリーダー

氏名	所属
◎今田 奈々(女)	東洋大2
鈴木 芽(女)	明治学院大2
◎道明 祥江(女)	東京理科大3

英国ミドルズブロウ交換留学派遣団(6名)

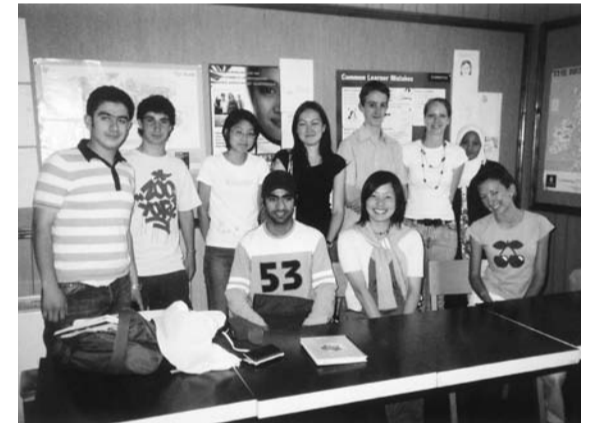
氏名	所属
生川 智加(女)	小山台高校全1E
岩澤 百合香(女)	全1E
中村 たいら(男)	全1A

◎印リーダー ○印サブリーダー

氏名	所属
土岐 恵(女)	中央大1
◎須藤 真里奈(女)	学習院大1
◎沢松 知慧(女)	成蹊大2

ドイツ交換留学受入学生・受入家庭(10名)

(受入学生)	(受入家庭)	
Hoehne Friederike	寺岡 杏菜	(18年度ドイツ派遣)
Wachulski Milosz	植松 史帆	"
Brikis Olympia	黒田 早彩	"
Hilgert Sonja	小松 ちはる	"
Spiegel Christoph	車戸 柊子	"
Kiessling Teresa	山口 あゆみ	(17年度ミドルズブロウ派遣)
Berg Maria	山田 寛子	(18年度ドイツ派遣)
Naturski Sebastian	山川 芳行	"
Solinski Julia	龍 初音	"
Hasler Friederike	鈴木 秀和	(14年度、18年度ドイツ派遣)
○Kobayashi Nagisa	—	—
○Umetsu Yumiko	—	—



ボンマス



ブリッドポート



ミドルズブロウ

19年度第2回学生台湾派遣募集日程

問合せ：財団法人小山台 TEL 03-5721-6171

台湾派遣説明会(場所：財団小山台) 19年10月7日(日)14時～16時

募集受付(場所：財団小山台) 19年10月9日(火)～19日(金) 9時～17時受付

募集人員・資格 大学生のみ 9名(資格：小山台高校卒業の大学生、専門学校生 派遣時大学3年生まで)

派遣期間 20年3月(8日間) 予定。詳細日取りは後日。

面接試験 19年10月28日(日)

発表 19年10月30日(火)

「寺子屋小山台」開講 初年度好評裡に終わる

— 知験継承の場・寺子屋小山台

塾長 福川 伸次(前理事長)

寺子屋小山台のプロジェクトは、関係者の努力で二期目を迎えることができた。財団小山台は、長い間の低金利で事業の拡張が思いに任せず、新規事業に何を選擇すべきか議論を重ねてきたが、2005年の改革において、一部有志の熱意がこのプロジェクトの実現につながった。

寺子屋の起源は、史実によれば、1469年前後文明、元和の時代に遡る。そして、明治初期に至るまで広く存在した庶民の教育機関であり、1854年から1867年にかけての安政、慶応の時代には、年間平均307軒の寺子屋が設立されたという。

その寺子屋では、読み、書き、そろばんから始まり、時代に応じた庶民の社会生活に必要な知識、技能、道徳を教え、庶民がヒューマニティを体得する場であった。その寺子屋は、時代を担う若い層への知識と経験を伝達する場であった。

日本では、自然との共存と調和の中で培ってきた

美しさ、優しさ、思いやりといった日本の心が文化を支えてきた。戦後は優れた海外の技術やシステムを取り入れて活気に満ちた経済を築くたくましさもあった。しかし、最近では日本人自身がそうした日本の特技を忘れかけている。

私は、最近の日本社会において、日本の知的資産の継承力が低下していることも危惧している。企業がしばしば起こす不祥事件、政策の対応力の停滞、国際貢献意欲の低下などがその例である。

小山台高校の卒業生や関係者の中には、社会で多彩な活躍をし、知識、経験の豊かな方が多数おられる。膝を交えてその知的資産を次代に活躍する方々に継承しようというのが寺子屋小山台の趣旨である。

第一期には、幸いにして超一流の先輩講師、外部講師を迎えてよいスタートを切ることができた。

寺子屋小山台を堅実な知験継承の場として是非活用されることを願っている。

19年度日程

開講期間 2007年9月～2008年3月

各月第2土曜日 14時～17時位

(講座予定は下記の通り)

日 程	テ ー マ	講 師
プレ講座(9/1)	「受講生の望むもの」 「自分が源泉というあり方」	福川 伸次氏 鈴木 博氏
第一回(9/8)	「リーダーシップ論」	小島 章伸氏
第二回(10/13)	「世界の動き」	藤田 公郎氏
第三回(11/17)	「青少年の問題について」	警視庁 生活安全部
第四回(12/8)	「日本経済について」仮	大澤 佳雄氏
第五回(1/12)	「中国から見た日本」仮	朱 建榮氏
第六回(2/9)	「日本論」	福川 伸次氏
第七回(3/1)	「成果発表」	受講生全員

※テーマ、講師については変更の可能性あり

平成18年度 事業報告

1. 国際交流事業

①海外派遣・受入

イ. ドイツベルリン市カニジウス校との交換留学

今年は派遣の年で、高校生・大学生10名を3週間ホームステイで派遣した。

ロ. 英国ブリッドポート・ユースセンターとの交換留学

今年は受入の年で、青少年5名および引率者1名、計6名を3週間ホームステイで受入れた。

ハ. 英国ミドルズブロウ市教育局との交換留学

今年は受入の年で、青少年6名および引率者1名、計7名を3週間ホームステイで受け入れた。

ニ. 英国語学研修派遣

高校生・大学生21名を3週間、ポーンマスの語学学校に派遣した。

ホ. 学生台湾交流派遣

大学生10名および引率者1名、計11名を8日間派遣した。

②外郭組織援助

イ. 海外派遣経験者の会 ロ. 受入家庭経験者の会

③海外研修助成

他団体のアジア地域およびアメリカ合衆国への研修派遣に参加を希望する学生に対して、その費用の一部を助成した。

④国際交流他団体助成

イ. (財)日本教育映像協会が小学生・中学生・高校生を対象に行っている「留学生が先生」教育プログラム費用の一部助成した。

ロ. 交換留学提携校、提携団体への寄付

2. 社会教育事業

①公開文化講座の開催

次のテーマで10回実施した。

第1回 家族の健康を守るバランスのとれた食生活

第2回 敬語のケイコはいかが

第3回 お似合う色・役立つ色

第4回 ご先祖様は何代先までわかるか

第5回 歴史散歩(1)両国から鳥越神社

第6回 歴史散歩(2)浅草寺町散歩

第7回 イキイキ音楽療法

第8回 音楽レクチャーコンサート(1)ピアノとフルート

第9回 昨今の離婚と相続

第10回 音楽レクチャーコンサート(2)弦楽四重奏

②寺子屋小山台の開催

プレ講座を含め7回開催。

③都立小山台高校プラスバンドの都民公開コンサートの費用助成

3. 学校教育事業

①都立小山台高校への助成

イ. 進路、学力向上関係

ロ. 学校P R関係

ハ. 運動会・合唱コンクール等の行事関係

ニ. 夏季合宿、部班活動関係

ホ. 講習会、コーチ指導関係

ヘ. その他

②中学校向け事業への助成

③育英事業

一般奨学金

都立高校41名に年間15万円、合計615万円を給付した。

4. その他

①広報

イ. 会報を年1回9月に発行した。

ロ. 業務・財務に関する情報をホームページで公開している。

②会議室・ホール等施設を開放している。

平成19年度 事業計画

1. 国際交流事業

①海外派遣・受入

イ. 英国ブリッドポート・ユースセンターとの交換留学

今年は派遣の年で、高校生・大学生6名を3週間ホームステイで派遣する。

ロ. 英国ミドルズブロウ市教育局との交換留学

今年は派遣の年で、高校生・大学生6名を3週間ホームステイで派遣する。

ハ. ドイツベルリン市カニジウス校との交換留学

今年は受入の年で、青少年とリーダー10名および引率者2名、計12名を3週間ホームステイで受入れる。

ニ. 英国語学研修派遣

高校生・大学生26名を3週間、ポーンマスの語学学校に派遣する。

ホ. 台湾への派遣

台湾環球技術学院との交流で大学生を10名、8日間派遣する。

②外郭組織援助

事業に協力する組織の育成を図り、事業の中核として当財団に寄与する人材を育成することを目的として、下記の組織に援助する。

イ. 海外派遣経験者の会(ランチの会)

ロ. 受入家庭経験者の会(あけぼの会)

③海外研修助成

他団体のアジア地域およびアメリカ合衆国への研修派遣に参加を希望する生徒・学生に対して、その費用の一部を助成する。

④国際交流他団体助成

イ. (財)国際教育映像協会が小学生・中学生・高校生を対象に行っている「留学生が先生」教育プログラム費用の一部助成

ロ. 交換交流提携校への寄付

2. 社会教育事業

①公開文化講座の開催

8回実施する。そのテーマは4頁に掲載。

②寺子屋小山台の開催

7回実施する。そのテーマは上掲。

3. 学校教育事業

①都立小山台高校への助成

イ. 進路、学力向上関係

ロ. 学校P R関係

ハ. 運動会・合唱コンクール等の行事関係

ニ. 夏季合宿、部班活動関係

ホ. 講習会、コーチ指導関係

ヘ. その他

②中学校向け事業への助成

③育英事業

イ. 一般奨学金

都立高校41名に年間15万円、合計615万円を給付する。

ロ. 緊急奨学金

緊急に援助が必要になった生徒に対して、5名の枠内でイ. と同様に給付する。

4. その他

①広報

イ. 会報を年1回9月に発行する。

ロ. 業務・財務に関する情報をホームページで公開している。

②会議室・ホール等施設を開放している。

③その他

平成19年度は景気回復が続き金利上昇の動きが見られるので若干の収入の増加が期待できる。一方事業費予算は全事業を見直した上で重点配分を心掛けた。実施を計画している事業の概要は下記の通りである。

小山台高校の勢いは果てしなく

都立小山台高等学校 校長 矢作 洋



高橋ヨシ子校長の後任の矢作洋と申します。私以外にも、この4月の異動で全日制6名、定時制5名、経営企画室3名が赴任しました。よろしくお願いたします。

会報第30号以降の小山台高校の報告をさせていただきます。

平成18年度の終盤にはプラスバンド班がアンサンプルの全国大会に出場して見事に銀賞を獲得しました。また、今春の卒業生の進学状況は国公立40名、難関私立大学(早稲田、慶応、上智)67名、明治・青山・立教・中央・法政209名とさらに延べ人数が増え、現役の進路決定率は84.4%と驚くべき数字を残しました。

平成19年度に入り、全日制に285名、定時制に41名の新生を迎えました。6月9日には学校見学会を開催し、327名の来校者がありましたが、その中で生徒会長の松尾君が海外語学研修の体験を堂々と説明し、英語力を披露するなど小山台生のすばらしさをアピールしてくれました。彼のあまりの立派さに会場からは驚きとためいきが出ました。6月13日には第38回合唱コンクールが日比谷公会堂にて開催され、例年同様レベルの高い合唱を聴くことができました。保護者等の入場者数は昨年より41名増えて849名にも達し、どこまで記録が伸びるのかという興味をかき立てられました。

本校は平成18年度まで3年間、都教委により「重

点支援校」の指定を受けていましたが、この3年間の進学実績が認められて、6月14日の教育委員会において「進学指導特別推進校」に駒場、新宿、町田、国分寺の各校とともに指定されました。日比谷、西等、7校の「進学指導重点校」に次ぐ位置付けであり、マスコミに報道されました。その影響は6月29日に実施した塾、予備校等対象の説明会の参加者数が昨年の17名から30名以上になったことにも出ているようです。本校としては一層進学実績を向上させる使命を与えられ、そのためには授業、補習、講習等に全職員で力を注ぐとともに、進路データ分析等をおして合理的な進路指導に取り組むことにしています。

昨年10回実施したキャリアガイダンスは16回実施します。また、2年生対象には高大連携に力を入れ、「学問の面白さ」という企画を新しく年2回実施し、医療、マスコミ、スポーツ、ものづくり、法律、応用生物、航空などの専門家を招いて講義をしてもらいます。化学、物理に加えて生物の講義実験も実施します。このような大学や社会人の専門家などプロの話は、生徒にとって未知の本物の世界に触れる機会であり、自分のキャリア設計に多大の好影響をもたらす、具体的な進路選択にも役立つものと確信します。

このように小山台高校の勢いは果てしなく、とどまるところがないということが出来ます。今後とも本校に対する変わらぬご支援とご協力を心からお願いいたします。



定時制 副校長
大窪 伸幸

この4月に定時制課程副校長に着任しました大窪と申します。これまでの勤務校は6校で、定時制は2校目になります。近年、新しいタイプの定時制高校が増え、本校のような従来型の定時制は減っています。また、生徒も勤労青少年が減った一方、いろいろな思いを抱えた生徒が在籍するようになり、定時制高校のあり方が問われていると思います。

本校には、今年度40名の生徒が入学し、全校生徒数は150名を超えています。それぞれの生徒の背景は様々であり、学校教育に対する価値観や期待感も多様です。そのような生徒達の自己実現をいかに図るかが課題となりますが、その取り組みの一つとして今年度教育相談の充実を推進しています。スクールカウンセラーの配置に伴い、教育相談体制を整え、校内研修などを通して、教員の意識も向上しています。生徒一人ひとりが生き生きと学校生活を送れるように全力を尽くしたいと思います。よろしくお願いたします。

平成19年度 公開文化講座のご案内

平成19年度は公開文化講座は8回計画しました。既に実施済、締切済のものもありますが下記の内⑦～⑧は今後開催予定のものです。詳細は財団にお問い合わせください。

*実施済、締切済のもの

- ① 言論・表現の不自由……………講師 水口 義朗
② 癒しのヨーガ……………講師 清水多江子
③ 近頃思うこと……………講師 芳村 真理
④ 歴史散歩(1)新東京タワーの押上から亀戸天神……………講師 手島宗太郎

⑤ 歴史散歩(2)樋口一葉記念館、下谷、電泉散策……………講師 手島宗太郎

⑥ レクチャー・コンサート マリンバ・デュオ……………講師 大塚 修造

*今後開催予定のもの(場所 小山台会館、14:00から)

- ⑦ 1月26日[土] こうやればできる!整理・収納……………講師 ハウスキーピング協会 整理・収納アドバイザー 吉村 知恵
⑧ 2月23日[土] イキイキ音楽療法—明治・大正・昭和の歌で明るく元気に若返る……………講師 音楽療法専門士 田沢 弘子

平成19年度 新任役員・評議員・委員一覧

役員	副理事長	矢作 洋	小山台高校	校長
	理事	大窪 伸幸	同	定時制副校長
評議員		山口 佳子	全	PTA
		重永 晴枝	定	PTA
		島田 葉子	全	PTA
社会教育事業部会	部会員	山口 佳子	全	PTA
	部会員	中村くるみ	全	PTA
学校教育事業部会	部会員	重永 晴枝	定	PTA
	部会員	金成 憲道		
財務財産委員会	委員長	大橋 学		
システム委員会	委員長	松丸 心一		
	委員	増田 次郎		
新公益法人準備委員会	委員長			

新事務局長に松本氏、次長に佐藤氏が就任



事務局長就任について 松本 功次

今年の4月から岸本前事務局長の後を受けて事務局長に就任しました。すでに就任後半年を経過しておりますが、局長の仕事の重責を実感しております。財団の収入と大きな関係のある長期金利は幸いにも若干上向き傾向にありますが一本調子というわけではなく、また今後展開される新公益法人法への対応などむずかしい課題もあります。さらに現体制の活動を実質的にスタートしてからすでに十数年を過ぎ、この間機構改革など数度の変革を経て来ましたが、時代背景は常に変化いたします。財団の中、長期の将来のためには先を見越した大胆な改革も必要となって参ります。杉山常勤理事及び佐藤次長との連携プレーを含め事務局一丸となって進みたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。



はじめまして 佐藤 真之

この度松本前事務局長の事務局長昇格に伴い、事務局入りのご縁をいただきました。今まで銀行、証券と金融の世界一筋で過ごしてまいりましたので、公益法人という新しい環境の中ではたして役に立つのかどうか心配をしています。特に学校教育・文化・国際交流といった分野とは全く無縁の人生を送ってきただけに適応性を疑問視するところではありますが、根っからの楽観論者、「なんとかなるさ」の気持ちでスタートしました。幸いにも先人の皆さんのご尽力により経営基盤は磐石で、各事業の運営も軌道にのっており、加えて松本事務局長の豊富な経験と力強いリーダーシップのもとで事務局も順調な業務執行が行われている状況を目にし、私でもなんとかなるように思っている今日この頃です。今までは大人との出会いが中心でしたが、財団では大人から学生に至るまで多くの人達との出会いを経験させていただいており、日々新鮮な気持ちです。この気持ちを忘れずに、歴代の財団関係者が育ててこられた事業の更なる発展に、微力ではございますが精進したいと思っています。よろしくお願いいたします。

貸借対照表

平成19年3月31日 現在

〈資産の部〉	
科目	金額
流動資産合計	53,736
預貯金	53,736
固定資産合計	7,477,378
基本財産合計	7,265,787
有価証券	6,227,103
預貯金	74,206
土地	654,650
建物	309,827
その他の固定資産合計	211,591
有価証券	200,000
預貯金	4,434
器具・備品	7,157
資産合計	7,531,114

〈負債・正味財産の部〉	
科目	金額
負債合計	5,093
流動負債合計	659
源泉税等預り金	659
固定負債合計	4,434
退職給付引当分	4,434
正味財産合計	7,526,021
基本財産	7,265,787
その他の財産	260,234
事業拡大積立金	200,000
その他	60,234
負債・正味財産合計	7,531,114

正味財産増減計画書

自 平成18年4月1日
至 平成19年3月31日(単位:千円)

〈増加原因の部〉	
科目	金額
基本財産運用収入	94,532
運用財産運用収入	2,094
負担金収入	5,250
その他収入	10,755
合計	112,632

〈減少原因の部〉	
科目	金額
事業費	86,582
管理費	32,209
合計	118,791

当期正味財産減少額	6,159
前期繰越正味財産額	7,532,181
期末正味財産合計額	7,526,021

編集後記

約15年にわたり、財団の常勤理事、事務局長を勤められた岸本博通氏が、去る3月末をもって定年退職された。財団がこれまで小山台高校の助成、国際交流、社会教育等の事業を続け、多大な成果を挙げてこられたのも、氏の貢献によるところ大であり、余人をもって替えたい存在でおられたが、定年を機にご本人の希望もあり、退職されることとなった。後任には前次長の松本功次氏が昇格し、次長には新たに佐藤真之氏が就任した。今後少なくとも3年間はこの体制で臨むので両氏の活躍を期するとともに、これを機に一層開かれ親しまれる事務局になることを切に願うものである。(常勤理事 杉山 元)